

経営比較分析表（平成30年度決算）

北海道 中支店広域水道企業団

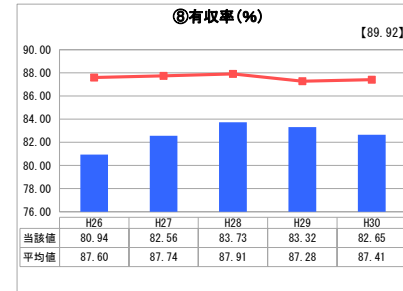
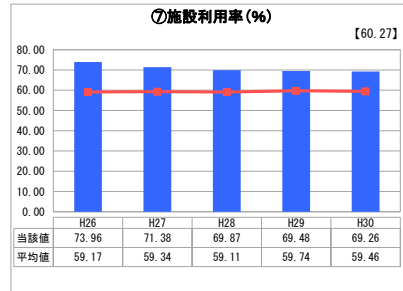
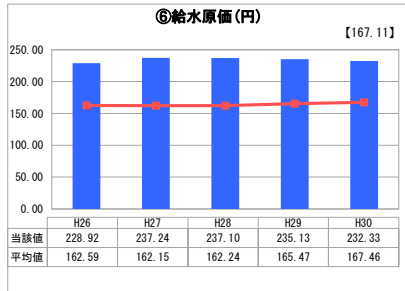
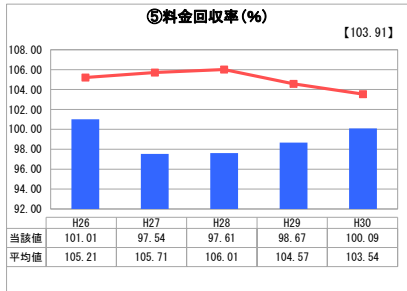
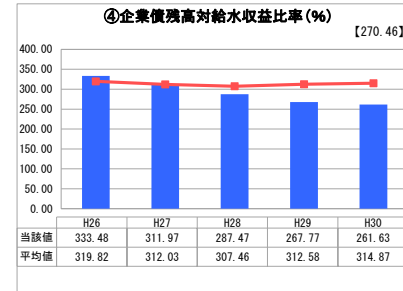
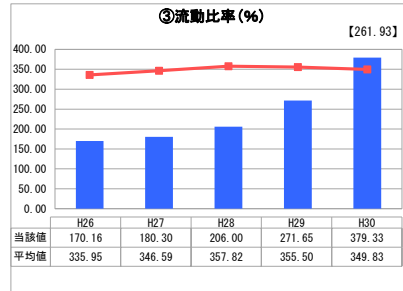
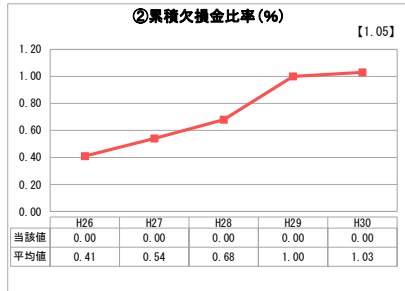
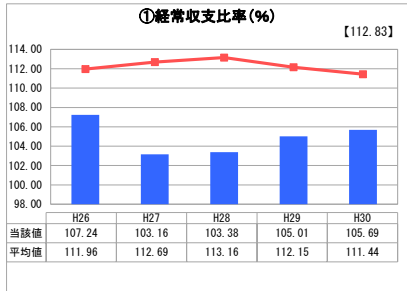
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	80.63	98.64	4,528	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
64,655	136.89	472.31

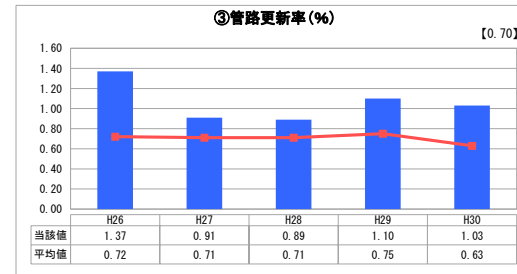
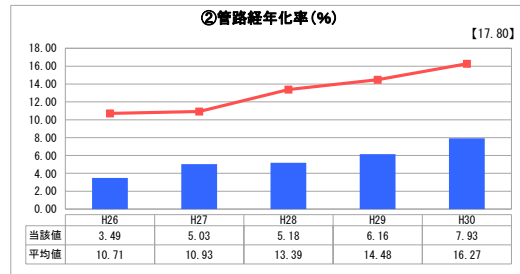
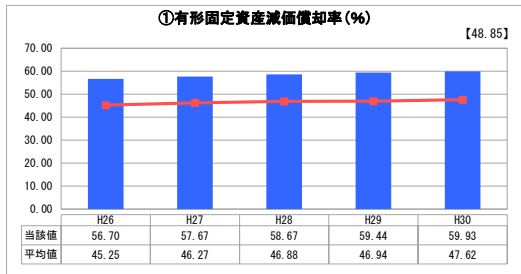
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率においては、経年100%以上（黒字）を維持しており、累積欠損金は発生していないが、料金回収率は、経年で100%を下回ることがあり、更なる費用削減と更新投資等に充てる留保資金の確保に努めなければならない。現状では、経費の削減等により経常収支が黒字となっている。流動比率は100%を上回っており、一年以内に支払うべき債務に対する支払能力に問題はない。有収率が類似団体と比較して低い点については、過疎化が進む地域性の問題点もあり、一概に数値の向上を図ることをよしとするものではないが、管路更新計画を年次計画的に進めていくことにより、向上につなげていきたい。施設の利用率については、類似団体と比較しても高い水準であり、適切な施設の規模であると分析しているが、給水原価は、類似団体と比較するとコスト高になっている傾向が見える。

2. 老朽化の状況について

管路更新率は、類似団体と比較した平均値より高い位置で推移している上、現在のところ管路経年化率についても類似団体よりも低い数値で推移しているところだが、今後、管路経年化率は確実に高くなることから計画的な更新を進め、現状の管路更新率を維持していく必要がある。さらには、有形固定資産減価償却率が高く、施設の老朽化が進んできており、分析結果からも今後の施設更新計画を年次計画どおり進めていくことが求められていると判断している。

全体総括

当企業団は平成18年度の統合（3市1町）より12年が経過し、この間、用水供給事業から末端給水事業へと事業変更を図り、平成20年4月には3市1町の水道料金の統一を図ったところである。料金統一から11年が経過したが、給水人口及び給水収益は、年々減少が続いており、今後更新需要のピークを迎えていく経年・老朽化資産に係る適切かつ計画的な更新方策を講じるとともに、人口減少に伴う料金収入減少など厳しい経営環境に対応していくため、中長期的な経営の基本計画である「水道事業経営戦略」に基づき、今後の財政的課題をクリアにすることが必要となる。将来的に財政負担が過大とならないよう収支の均衡を図りながら、今後も健全な事業運営に取り組みたい。